

広済寺寺報

発行 浄土真宗本願寺派 福田山 廣済寺

〒 933-0344 富山県高岡市笹川98

TEL(FAX) 0766-31-0096

E-Mail info@kosaiji.net

ホームページ

http://kosaiji.net/

法座のご案内

六月三日(金)・四日(土)

午前九時半・午後二時より

永代祠堂経法要

※ 昼食にお斎を用意しております



今号の法語



悲しみは

二人で分けると

半分になり

喜びは

二人で分けると

二倍になる

今号の内容

- ・東日本大震災支援活動
- ・第一回五位組大遠忌団体参拝報告
- ・第二回五位組大遠忌団体参拝募集

三月十一日午後二時四六分。国内観測史上最大の大地震が発生し、それは未曾有の大津波となって襲いかかり、あらゆるものを飲み込み、そして奪つていきました。波が引いた後に残ったのは、信じられないほどの何も無い光景。この東日本大震災の惨状は私たちにもテレビ等を通して生々しく伝えられました。

津波は全てを奪い去っていき、ました。いつも一緒だった家族、楽しい親友達、思い出がいっぱいに詰まった家……。全てを飲み込んだ津波が人々に残していったもの、それは深い深い悲しみでした。

今、被災された人々は深い悲しみを心に抱きながら、それでも前を向いて一日一日を一生懸命に生きておられます。対して今、私たちにできることは何なのでしょうか？

ごえいどう 御影堂にご安置されているごしんねいさま 御真影様



第一回 五位組大遠忌団体参拝報告

四月十日(日)・十一日(月)

いよいよ四月九日から親鸞

聖人七五〇回大遠忌法要が始まりました。来年の一月十六日にかけて計六十五日間、全一一五座が勤められます。

広済寺が所属する五位組では始まって間もない四月十一日に総勢三四九名で参拝

させていただきました。

前日の十日朝に高岡を出発し、まずは親鸞聖人ご修行の地である比叡山へ。大講堂と根本中堂こんぽんちゅうどうを参拝させていただきました。

比叡の山を下りた後は、いよいよ京都です。蹴上けあけから京の町中に入ったのですが、途中のインクラインの桜の見事なこと。まさに満開で非常に良いタイミングで京にいられたことに感謝。

本願寺へは翌日朝に宿を出発。午前の法要に参拝させていただきました。平成の大修復が完成した御影堂には仮設の参拝席が設けられており、その広さにビックリ。内陣がは



修復された御影堂をバックに記念撮影

させていただく本来の意味を再確認させていただいたよう

に思います。「これからお前はどうに生きて行くのか?」親鸞聖人の前で、阿弥陀様の前で、嘘偽りのつけない前で、自分自身に問われたように思います。

このご縁を大切にさせていただきます。

今回の大遠忌開始直前に東日本大震災が発生。延期の声もあつた中での大法要参拝となりましたが、そういった中だったからこそ、法要に参拝う。



増設され、ものすごい広さの御影堂内

お知らせ

二〇二一年

永代祠堂経法要

六月三日(金)・四日(土)

午前九時半より
午後二時より

御講師

五位組 教願寺

岡西 法英 師

正信偈を読む会

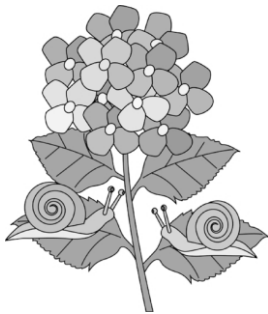
六月十八日(土)

午後四時より

広済寺仏教婦人会

毎月第四土曜日

午後七時半より



第二回

五位組大遠忌団体参拝募集

十一月十三日(日)・十四日(土)

四月の第一回五位組大遠忌団体参拝が無事終わり、第二回目を予定通り十一月十三日(日)・十四日(月)の一日泊二日で行います。費用は一回目と同じく三万五千元(予定)。募集人数は四〇名程度です。ただし現在すでに二十六名の方が申し込まれておられるので、もう一台バスを増やし募集人数を増やすことも考えております。

詳細は未定ですが、一回目と違い今回は少人数ですので、比較的自由に楽しんで頂けるとと思います。

正式な申し込み用紙が出来次第、ホームページ、また寺報にてお知らせいたします。



早めに申し込んでおきたいという方は広済寺までご連絡ください。

ちょうど桜が満開だった第一回目。第二回目は十一月です。今度は紅葉が美しい時期に重なればいいですね。

五〇年に一度の大法要。是非参拝していただき、自らの生き方を問い直す尊いご縁としていただければと思います。

編集後記

四月の五位組大遠忌団参は桜満開の中での参拝となりました。

桜といえば親鸞聖人にこんな歌が伝えられています。聖人九歳の春の頃、仏門に入りになる時、「もう夜遅いから明日にしよう」と師の慈円和尚。その時聖人がお詠みになったのが

「明日ありと思う心の徒桜
夜半に嵐の吹かぬものは」

「この世は無常であり、今を盛りと咲く桜が夜中の嵐で散ってしまうかもしれません。同じように、私の命もいつなくなってしまうかわかりません。どうか、今ここで得度の儀式を執り行つて下さい」

人は皆、「今」を生きています。かけがえのない「今」を大切に生かしていただきたいものです。